

# JRAT 活動報告書

平成 30 年 3 月

都道府県	大分	報告者	氏名 佐藤 友美	
団体名称／ 参加団体	大分災害リハビリテーション支援団体協議会（大分 JRAT）			
実施内容	<input checked="" type="checkbox"/> 組織化・連携の 動き	<input type="checkbox"/> 研修会実施	<input type="checkbox"/> 訓練等実施	<input type="checkbox"/> その他
実施日	平成 30 年 3 月 10 日	実施場所	アルメイダ病院	
概要	<p><b>【第 45 回大分救急医学会における災害ワークショップへの参加】</b></p> <p>南海トラフ地震では、大分県南の津波被害が想定されており、被害想定では、死者数約 22,000 人、負傷者約 6,300 人、最大避難者数約 169,000 人とされている。そこで、防災減災対策が求められると共に、平時における訓練をはじめとした災害時対応への準備が必要である。巨大地震災害に適切に対応するためには、多機関連携が重要であり、このワークショップは、初動対応を中心に議論しながら、多機関の役割や指揮命令系統等の情報共有を行うことを目的に開催された。</p> <p><b>【指定参加機関】</b></p> <p>大分県医療政策課 大分県防災対策室 大分県消防保安室 DMAT DPAT DHEAT JMAT 赤十字 大分 JRAT 大分県薬剤師会 自衛隊 大分県警察航空隊 大分海上保安部</p>			
所感	<p>災害医療の現場で活動する団体として JRAT をアピールする機会となった。また、多機関の任務を知ることができたこと、各団体の指揮命令系統は異なっており、行政との調整が欠かせないこと、保健所の役割が大きいことなどを学ぶことができた。</p> <p>南海トラフ地震発災後の混乱をシミュレーションすることで、被災地域にある病院や施設で働く療法士を支えることも必要と認識した。JRAT としての活動のみならず、構成団体が相互に支え合う関係づくりも必要になると考える。</p>			
今後の課題	他団体との合同研修、演習の実施			
今後の活動予定				